

基礎問題

「得点」
／50

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。

広い門の下には、この男のほかに誰もいない。ただ、ところどころ丹塗りの剥げた、大きな円柱に、きりぎりすが一匹とまつている。羅生門が、朱雀大路にある以上は、この男のほかに、雨やみをする市女笠や揉烏帽子が、もう二、三人はありそうなものである。それが、この男のほかに誰もいない。

なぜかと言うと、この二、三年、京都には、地震とか辻風とか火事とか飢饉とかいいう災いが続いて起こった。そこで洛中のさびれ方はひととおりではない。旧記によると、^A仏像や仏具を打ち碎いて、その丹がついたり、金銀の箔がついたりした木を、道端に積み重ねて、薪の料に売っていたということである。洛中がその始末であるから、羅生門の修理などは、もとより誰も捨てて、^aカエリみる者がなかった。するとその荒れ果てたのをよいことにして、狐狸が棲む。盗人が棲む。とうとうしまいには、引き取り手のない死人を、この門へ持つて来て、捨てて行くという習慣さえできた。そこで、¹日の目が見えなくなると、誰でも氣味を悪がつて、この門の近所へは²足踏みをしないうことになつてしまつたのである。

その代わりまたからすがどこからか、たくさん集まつて来た。昼間見ると、そのからすが何羽となく輪を描いて、高い鴟尾の周りを鳴きながら、飛び回っている。殊に門の上の空が、夕焼けで赤くなる時には、それが胡麻をまいたようにはつきり見えた。からすは、もちろん、門の上にある死人の肉を、ついにみに来るのである。——もつとも今日は、コクゲンが遅いせいとか、一羽も見えない。ただ、ところどころ、崩れかかった、そうしてその崩れ目に長い草の生えた石段の上に、からすの糞が、点々と白くこびりついているのが見える。下人は七段ある石段のいちばん上の段に、洗いざらした紺の襖の尻を据えて、右の頬にできた、大きなきびを気にしながら、ぼんやり、雨の降るのをナカめていた。

作者はさつき、「下人が雨やみを待つていた。」と書いた。しかし、下人は雨がやんでも、格別どうしようという当てはない。ふだんならもちろん、主人の家へ帰るべきはずである。ところがその主人からは、四、五日前に暇を出された。前にも書いたように、。当時京都の町はひととおりならず衰微していた。今この下人が、永年、使われていた主人から、暇を出されたのも、実はこの衰微の小さな余波にほかならない。だから「下人が雨やみを待つていた。」と言うよりも「雨に降りこめられた下人が、行き所がなくて、途方に暮れていた。」と言うほうが、適當である。その上、今日の空模様も少なからず、この平安朝の下人の *Sentimentalisme* に影響した。申の刻下がりから降り出した雨は、いまだに上がる。気色がない。そこで、下人は、何をおいても差し当たり明日の暮らしをどうにかしようとして——いわばどうにもならないことを、どうにかしようとして、とりとめもない考えをたどりながら、さつきから朱雀大路に降る雨の音を、聞くともなく聞いていたのである。

問二 二重傍線部 **a** と **d** を、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。(3点×4) 知

問二 波線部1・2の意味を、それぞれ簡潔に書け。(6点×2) 知

問三 傍線部Aからは、どのようなことがうかがえるか。(10点) **思**

問四 傍線部Bは、何を指しているか。最も適当なものを、次から選べ。(6点) 思

イ 狐狸や盗人がたくさん羅生門に住んでいること。

引き取り手のない死体を羅生門に棄てていくこと。

エ たくさんの中からすが羅生門のまわりに集まって来ること。

才羅生門のまわりに誰も人がいなかったこと。

問五 傍線部Cとあるが、それはなぜか。本文中の語句を用いて、三十字程度で説明せよ。(10点)

問五		問三	問一	
			c	a
			d	b
10			問二	
			2	1
		問四		
20				
30				

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

それから、何分かの後である。羅生門の楼の上へ出る、幅の広いはしごの中段に、一人の男が、猫のように身を縮めて、息を殺しながら、上の様子をうかがっていた。楼の上からさす火の光が、かすかに、その男の右の頬をぬらしている。短いひげの中に、赤くうみを持ったにきびのある頬である。下人は、初めから、この上にいる者は、死人ばかりだと、高をくくつていた。それが、はしごを二、三段上つてみると、上では誰か火をとぼして、しかもその火をそこごと、動かしているらしい。これは、その濁った、黄色い光が、隅々に蜘蛛の巣をかけた天井裏に、ユレながら映つたので、すぐにそれと知れたのである。この雨の夜に、この羅生門の上で、火をともしているからは、A どうせただの者ではない。

下人は、やもりのように足音を盗んで、やつと急なはしごを、いちばん上の段まではうようにして上りつめた。そうして体をできるだけ、平らにしながら、首をできるだけだけ、前へ出して、恐る恐る、楼の内をのぞいてみた。

見ると、楼の内には、うわさに聞いた通り、幾つかの死骸が、無造作に捨ててあるが、火の光の及ぶ範囲が、思ったより狭いので、数は幾つともわからない。ただ、おぼろげながら、知れるのは、その中に裸の死骸と、着物を着た死骸とがあるということである。もちろん、中には女も男も混じっているらしい。そうして、その死骸は皆、それが、かつて、生きていた人間だという事実さえ疑われるほど、土をこねて造つた人形のように、口を開いたり手を伸ばしたりして、ごろごろ床の上に転がっていた。しかも、肩とか胸とかの高くなっている部分に、ぼんやりした火の光を受けて、低くなっている部分の影をいつそう暗くしながら、永久におしのごとく黙っていた。

下人は、それらの死骸の腐乱した臭気に思わず、鼻をおおった。しかし、その手は、次の瞬間には、もう鼻をおおうことを忘れていた。ある強い感情が、ほとんどことごとくこの男の嗅覚を奪ってしまったからである。

下人の目は、その時、初めて、その死骸の中にうずくまっている人間を見た。檜皮色の着物を着た、背の低い、やせた、白髪頭の、猿のような老婆である。その老婆は、右の手に火をともした松の木切れを持って、その死骸の一つの顔をのぞきこむように眺めていた。髪の毛の長いところを見ると、たぶん女の死骸であろう。

下人は、B 六分の恐怖と四分の好奇心とに動かされて、2 暫時は呼吸をするのさえ忘れていた。旧記の記者の語を借りれば、「頭身の毛も太る」ように感じたのである。すると、老婆は、松の木切れを、床板の間に挿して、それから、今まで眺めていた死骸の首に両手をかけると、ちやうど、猿の親が猿の子のしらみを取るように、その長い髪の毛を一本ずつ抜き始めた。髪は手に従って抜けるらしい。

その髪の毛が、一本ずつ抜けるのに従って、下人の心からは、恐怖が少しずつ消えていった。そうして、それと同時に、この老婆に対する激しい憎悪が、少しずつ動いてきた。――いや、この老婆に対すると言つては、語弊があるかもしれない。むしろ、あらゆる悪に対する反感が、一分ごとに強さを増してきたのである。この時、誰かがこの下人に、さつき門の下でこの男が考えていた、飢え死にするか盗人になるかという問題を改めて持ち出したら、恐らく下人は、何のミレンもなく、飢え死にを選んだことであろう。それほど、この男の悪を憎む心は、老婆の床に挿した松の木切れのように、勢いよく燃え上がり出していたのである。

問一 二重傍線部 a と c を、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。(3点×3) 知

問二 波線部 1・2 の意味を、それぞれ簡潔に書け。(ただし、1 は「高をくくる」で答えること。)(5点×2) 知

問三 傍線部 A とあるが、このようにいえるのはなぜか。説明せよ。(12点) 思

問四 傍線部 B とは、何に対する「恐怖」と「好奇心」か。最も適当なものを、次から選べ。(11点) 思

A 猿のような不気味な老婆の容姿に対する恐怖と、わざわざ髪の毛を抜いて何に使うのかという疑問に対する好奇心。

I 得体の知れない不気味な容姿をした老婆に対する恐怖と、女の死骸の顔をのぞきこむ理由に対する好奇心。

U この世のものと思えない姿で作業をする老婆に対する恐怖と、何をつくろうとしているのかということに対する好奇心。

E 老婆が動かす火の光のおどろおどろしさに対する恐怖と、老婆の予測不可能な今後の動きに対する好奇心。

問五 芥川龍之介の作品を、次から二つ選べ。(4点×2) 知

A 草枕 I 河童 U 青年 E 和解 O 斜陽 カ 芋粥

問三		問一
		a
		b
		c
		問二
		1
問五	問四	2

羅生門 基礎問題

- 問一 a 顧 b 刻限 c 眺 d けしき（3点×4）
- 問二 1 太陽が沈む 2 近寄らない（6点×2）
- 問三 人々は生活が苦しく、精神的にも荒廃していたということ。（10点）
- 問四 才（6点）
- 問五 地震とか辻風とか火事とか飢饉とかいう災いが続いて起こったため。（31字）（10点）

羅生門 標準問題1

- 問一 a 影響 b たいぎ c 遠慮（3点×3）
- 問二 午後四時過ぎ。（6点）
- 問三 ア（8点）
- 問四 イ（9点）
- 問五 人に危害を加えられるかもしれないから。（19字）（9点）
- 問六 ウ（9点）

羅生門 標準問題2

- 問一 a 揺 b きゆうかく c 未練（3点×3）
- 問二 1 甘く見る 2 しばらくの間（5点×2）
- 問三 雨の夜という人が出歩かない時間帯であり、死人ばかりで生きた人間がいるはずのない場所に存在する者だから。（12点）
- 問四 イ（11点）
- 問五 イ・力（4点×2）

羅生門 発展問題1

- 問一 a 逃 b 憎悪 c じようじゆ（3点×3）
- 問二 I 才 II エ III ア IV 力（4点×4）
- 問三 自分の行為を罰せられると考え、早くこの場から逃げ出したいという気持ち。（8点）
- 問四 老婆を取り押さえ、屈服させたことに対する得意と満足。（9点）
- 問五 才（8点）

羅生門 発展問題2

- 問一 a 平凡 b 捕 c けたお（3点×3）
- 問二 ア（8点）
- 問三 悪いことをした者に対して行う悪は許される。 ・ 飢え死にをしないために仕方なくする悪は許される。（7点×2）
- 問四 盗人になる勇氣。（8字）（9点）
- 問五 解答省略（10点）

羅生門 発展問題3

- 問一 I イ II エ（25点×2）